

## 15 田中弥性園の古医書

小曾戸 洋<sup>1)</sup>・天野陽介<sup>1)</sup>・友部和弘<sup>1)</sup>

町<sup>1)</sup> 泉寿郎<sup>2)</sup>・田中祐尾

<sup>1)</sup>北里研究所東洋医学総合研究所

<sup>2)</sup>田中医院

田中弥性園（大阪府八尾市）には、江戸時代の医家田中氏の蒐集にかかる古医書類が多数現存している。過去、蔵書目録の作成が試みられたこともあるが、これまで公開されたことはない。演者らは平成十八年六月～十一月の六ヶ月間、田中弥性園の古医書類すべてを北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部（東京都港区）に搬送し、修復・整理作業を行い、新たに目録を完成した。以下、その概要を報告する。

田中弥性園に現蔵される古医書類はおよそ四三四種、一四六一冊（一九三九巻）ある。

①中国刊の漢籍医書は五九種、四七五冊（六六七巻）ある。十六世紀の正徳版『奇効良方』、嘉靖版『袖珍方

大全』、同『仁齋直指方論』、同『医学綱目』、同『丹溪心法附余』など（これらについては平成十年の本学会学術総会で報告した）の古版本をはじめとする明版・清版がある。崇禎元年（一六二六）刊の『薛氏医案』十六種本は承応三年（一六五四）日本覆刊本の原本で、完揃本は世にさほど多くは存在しない。

②日本刊の漢籍医書（朝鮮籍一点を含む）は六〇種、二五四冊（三七四巻）ある。すべて寛永から文政にかけての江戸刊本。寛政十年（一七九八）刊の木活字版『（癸巳新刊）御葉院方』や天明五年（一七八五）刊の『太平聖恵方』（巻二十一以下は抄本）などは稀覯本といえる。

③日本刊の国書医籍がいちばん多く、一四九種、三六〇冊（四三九巻）ある。ほとんどが江戸時代の刊本で、寛永から嘉永間にわたる（明治刊が二点）。範囲も一般方書から、古方、医経、鍼灸、本草、微瘡、麻疹、産科、蘭方など広く揃っている。『錦囊眼科秘録』（鳥飼洞斎・天明三年刊）は『国書総目録』に「大阪出版書籍目録による」とあるのみで、天下一品と思われる。

安永九年（一七八〇）刊の『（重訂）古今方彙』は本来、横本であるが、弥性園蔵本は上半分を空白とした美濃判の特上製本で、きわめて珍しい。

④日本写の漢籍医書は二二種、八四冊（一五九卷）ある。羅天益『衛生宝鑑』二五卷、劉信甫『活人事証方』二〇卷、危亦林『世医得効方』二〇卷、王好古『医畧元戎』一二卷、魏峴『魏氏家藏方』一〇卷、陳士鐸『石室秘録』一〇卷、高世忭『傷寒論集注』六卷など、日本刊本が存在せず、重要で大部の中国医書を抄写させているのは注目に値する。

⑤日本写の国書医籍も多く、一三三三種、一九一冊（二二三三卷）ある。外科、痘疹関係の方書はとりわけ充実している。福井崇蘭館（楓亭）の著書も少なくない。蓮基の『長生療養方』、有林の『福田方』、坂淨運の『統添鴻宝秘要』のような室町以前の古医書の写本も目を引く。

⑥欧米人原著の医学邦訳書は二二種、六五冊ある。中国刊の国書、日本写の蘭書はない。

田中弥性園の古医学書類は個人の蔵書としては質量

ともに優れており、大阪にあつては随一といえるであらう。